



校長通信『道標(みちしるべ)』 第23号

令和3年12月2日

福岡県立若松商業高等学校 校長 谷川 陽一



二十四節気：12月7日(火)大雪(たいせつ)

\*雪がよいよ降りに積っていく時期です。一年は「立春」から始まり「大寒」で終わります。

12月は1年を振り返る

— 自分の足跡を振り返り心を磨く —

本年も残すところあと1月となりました。来年をよりよいものとするため、1年間の自らの足跡を振り返り、将来に向けて心を磨きましょう。

さて、今年のNHK大河ドラマの主人公は、約500もの会社設立に尽力(じんりょく)し、近代日本資本主義の父と呼ばれる渋沢栄一(しぶさわえいいち)の生涯を描きました。渋沢は晩年(ばんねん)、企業は公益のためにあるという『合本主義(がっほんしゅぎ)』を唱(とな)えました。そして、道徳と利潤とを調和させ、商業人が歩むべき道を示した『論語(ろんご)と算盤(そろばん)』を著(あらわ)しました。算盤とは商業(ビジネス)のことです。公益(社会全体の利益)を求める論語(道徳)と企業の利潤を求める算盤(商業)とを結び付けたものです。

- ・士魂商才(しこんしょうさい)・・・武士の潔い精神と商人の才覚(さいかく)を兼(か)ね備(そな)えること
- ・道徳経済合一・・・商業は社会貢献や世の中の幸せを求め、同時に利益をあげること

このような理念で商業(ビジネス)に励(はげ)みなさい。経済的な裏付けがなければ社会は発展しない。道徳を持って商業(ビジネス)に励むことにより、世の中を幸せにできるとの教えです。

その渋沢は令和6年から一万円札の肖像となります。ちなみに、これまでの一万円札の肖像は聖徳太子(昭和33年～昭和61年)や福沢諭吉(昭和59年～現在)でした。

では、「論語」とはどのようなものか。今から約2500年前(紀元前500年)頃の中国の思想家である孔子(こうし)とその弟子(でし)の言行を、孔子の没後に弟子が記(しる)した書物です。我が国では古くから知識人だけでなく、一般の市民の教科書としても用いられました。聖徳太子が定めた十七条憲法も論語を参考にしたと伝えられています。人格を形成するための教えが書かれている「論語」は「神道」(しんとう：我が国固有の様々な神様の信仰)とともに、我が国の精神文化や心のよりどころとして深く根付きました。渋沢も幼いころから「論語」を学び、生涯をとおして言動の精神的な支柱(しちゅう)となりました。

その「論語」の中に「吾(われ)日に吾(わが)身を三省(さんせい)す」とあります。

- 一 人のために謀(はか)りて忠ならざるか  
・・・他人のことを考え、誠心誠意の真心をこめて対応できたか
- 二 朋友(ほうゆう)と交わりて信ならざるか  
・・・人をだましたり、ウソを言ったりしなかったか
- 三 習(なら)わざるを伝えうるか  
・・・自分が理解していないのに、人に伝えなかったか



1日に何度も自分の言行を振り返って、過失のないようにしなさいということです。私たちは聖人君子(せいじんくんし：知識や徳の優れた高潔(こうけつ)な人)のようにはいきませんが、せめて年の終わりには、1年の自分の足跡を見つめ直して将来に活かしましょう。

また、物事の本質を考えるうえで肝要(かんよう：最も必要なこと)なことは、歴史や先人の教えは現代を生きる私たちに道標として進むべき道を示めてくれているということです。時代や社会が変化しても、人のこころの本質は変わらないものなのです。

第3学年クラスマッチ

— 若き日に共有した感動は色褪せない —

昨年の3年生のクラスマッチは新型コロナウイルス感染症防止対策のため中止となりました。今年は感染症対策を万全にして予定どおり実施します。

昨年の3年生に対しては、とてもかわいそうな思いをさせ申し訳なく今でも大変残念でなりません。なぜなら、卒業後にクラスの仲間が集まる際、必ずクラスマッチや体育祭、若商祭、修学旅行、芸術鑑賞などの学校行事は話題の中心となります。高校生活の大切な1ページは色褪せず、20年・30年後でも、共に感動を共有した仲間は瞬時(しゅんじ)に時空を超えて気持ちが若き日の輝く瞬間に戻るものなのです。

学校行事は皆さんの人生でお金では買えない、かけがえない素晴らしい財産と必ずなります。本年度は新型コロナウイルス感染症防止対策を万全に実施します。3年生の皆さんどうか永遠の宝物となる「青春」を胸に刻みましょう。



クラスマッチ  
昭和50年(1975年)